

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 15 No.13 2013年7月15日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2013 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

スターコミュニケーションズ、H.323/SIP 対応 HD ビデオ会議ブリッジ国内販売開始、オーライソフトウェアとの販売代理店締結

スターコミュニケーションズ株式会社(東京都中央区)は、シンプルでローコストなH.323/SIP対応HDビデオ会議ブリッジ「ORION-MCU 2.2(オライオン MCU)」の販売を6月10日より開始した。また、オーライソフトウェア株式会社(東京都千代田区)とORION-MCUの国内販売代理店契約を締結したと発表。(取材:6月25日)



ORION-MCU 1U タイプの汎用サーバと PCI Express ボードを組み合わせた HD ビデオ会議ブリッジ(スターコミュニケーションズ 資料)

ORION-MCU は、イスラエルの SURF Communications Solutions 社が1年前から開発を始め、スターコミュニケーションズが「ORION-MCU 1.1」として今年の5月に日本国内向けに発売、そして今回、H.323 対応などの機能追加を行い ORION-MCU 2.2 の発表となった。

コーデックについては、HD ビデオ(720p)や HD ボイス(G.722.1)などをサポートし、CIF 解像度接続の場合は最大20台のビデオ会議端末、VGA 解像度では最大10台、HD 解像度では最大5台同時に接続が可能となっている。加えて、音声のみの場合(つまり音声会議)は最大200台

の端末が接続可能だ。

「HD ビデオ会議ブリッジ(MCU:多地点接続装置)は、すでにビデオ会議メーカーなどから販売されているが、価格的に高止まりしている感がある。」(スターコミュニケーションズ 代表取締役 岩下 敏 氏)

そこで、SURF 社は、市販の汎用サーバと PCI Express ボードを組合せ、アドホック会議のみに対応するなど必要最小限の機能にしぼったシンプルな MCU を開発した。1会議あたり5~10台で多地点会議を行うユーザが平均的に多いためその利用傾向に合わせて今回このユーザ層を想定している。昨今標準的になってきた HD にも対応し、価格についても中小企業でも充分導入できる価格帯に設定した。

「ORION-MCU は、ハードウェアの面では、市販の IA サーバと、映像・音声処理を行うマルチコア DSP(12コア)を実装した PCI Express ボード(「ORION EXPRESS 1286」)とを組合せ、また一方で、システムの面では、予約機能をはぶき、必要最小限の機能のみにすることで、製品として低コスト化を実現している。」(岩下 敏 氏)

ORION-MCU に接続できる端末は、H.323/SIP 対応のルームシステムのほか、パソコン・iPad・Android タブレット・スマートフォンとなっている。また、専用のソフトウェアを提供しており、パソコンについては Windows と MacOS、スマートフォン/タブレットについては iOS と Android 用のソフトウェアがある。

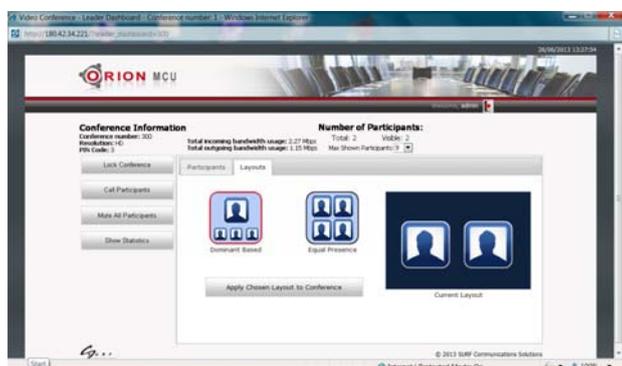
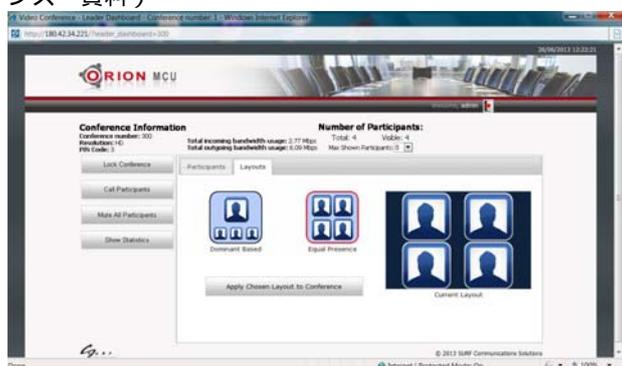
コンテンツ共有については、現在 Aver Information 社のビデオ会議システムであれば可能であるが、ORION-MCU 現行バージョンであれば、ビデオ会議端末の映像入力端子にパソコンの映像出力を接続することで擬似的には行えるという。ちなみに、ビデオ会議専用端末で標準的にサポートされている H.239 デュアルビデオは、ORION-MCU としては今年の夏に対応予定という。

一方、Web 管理機能(Web 画面)については、ビデオ会議

多地点を行う端末の登録やパスワードによる入室のほか、会議中のレイアウト変更(多画面分割)・呼び出し(ダイアルアウト)・ミュートや強制切断・統計情報なども行えるようになっている。加えて、会議中の発言者切り替えについては、話者自動切り替えや会議主催者の操作による切り替えのいずれかの方法で行う。



ORION-MCU による会議イメージ(スターコミュニケーションズ 資料)



コンソール画面(上・下写真) - レイアウト変更(スターコミュニケーションズ 資料)

その他の ORION-MCU の機能としては、マルチアクセス番号や NAT 越え機能もある。マルチアクセス番号については、ORION-MCU に複数のアクセス番号を設定できるため、同時に複数のビデオ会議または音声会議を行うことができる機能。また、NAT 越えについては、標準で対応しており、ニアエンド・ファーエンド NAT 越え機能を内蔵している。そのため別途外付けで NAT 越え装置を設置する必要はない。

製品提供方法としては、IA サーバ(1U)と ORION EXPRESS 1286 を一体に組み合わせて顧客に提供する方法と、ORION EXPRESS 1286 ボードのみを提供する方法の二通りの方法がある。価格的には、アプライアンスが 96 万円(税別)、そしてボードのみであれば、50 万円を切る設定になっている。

箱から出して簡単な初期設定(IP アドレスなど)をすればすぐに使えるという形での要望であれば、アプライアンスの方を顧客に提案するという。一方、すでに社内に PCI Express スロットのある PC を活用するとか、OEM やシステムインテグレーションであればボードのみ提供する方法が最適という。加えて、要望に応じて、ロゴや好きな画面、画面レイアウトなどカスタマイズも可能だ。

使い勝手の良いシンプルで低コスト MCU である点を取材中終始力説する岩下社長。現在、毎月のようにバージョンアップを行っているという。日本のユーザのニーズを受け機能追加を行っており、この 8 月には 2.5 倍の性能をもつさらに大きな規模での多地点会議に対応したモデルも発売する予定だ。

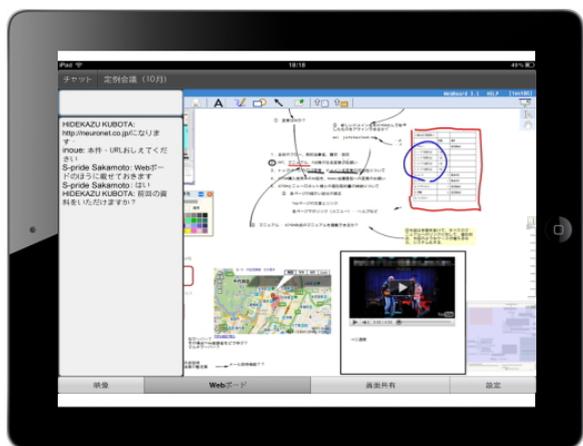
「この度、ビデオ会議販売でマルチベンダー実績のあるオーライソフトウェアが販売代理店となった。今後、クラウドやハウジング・オンライン販売などを含め ORION-MCU のビジネスを模索しつつ、販売代理店を拡大させていきたい考えだ。」(岩下 敏 氏)

スターコミュニケーションズは 2004 年 1 月設立。通信事業者・企業向けメディア処理ボード(SURF 社)や放送事業者向け映像伝送装置(TVU Network 社)などの製品を販売している。メディア処理ボード(「音声処理 DSP ボード」「映像処理

DSP ボード「FAX 処理 DSP ボード」は、同社が輸入し国内の大手 Sier にて販売されており、各種システムインテグレーションや OEM で幅広く採用されている。また、映像伝送装置については、テレビ放送事業者やインターネットストリーム事業者などに提供している。

ニューロネット、100 人が同時書込と音声会話できるペーパーレス会議システムを発表

ニューロネット株式会社(東京都町田市)は、スマートフォンで 100 人が同時に書き込みと音声会話が行えるペーパーレス Web 会議システム「Papaar(ペイパー)」を新たに発表した。(6 月 27 日)



ペーパーレス会議 Papaar 画面例 (ニューロネット 資料)

Papaar は、HTML5 技術と Web ボード技術を組み合わせた新しいタイプのペーパーレスシステム。iPad、Android タブレットやスマートフォンに対応し、無料のアプリをダウンロードし、同社から発行される ID を用い Papaar サイトにアクセスすることで使えるようになっている。

同時書き込みについては、文字・手書き絵・写真・動画・音声・HTML データなどあらゆるコンテンツを自由な位置に配置し書き込みができる。また、作成した文書は印刷が可能で、セキュリティに守られた Web 上での閲覧・検索・管理に対応している。加えて、参加者の映像表示、録音機能もオプションで付加できる。

価格は、1ヶ月使い放題で 980 円/ID。「極めて低価格なサービス。」(ニューロネット)

Papaar サービスは、紙と同様に手元で閲覧・操作ができ

るスマートフォンを使うため、職場や車中、駅など必要なところで必要な時に紙媒体の代わりに使えるとともに、紙資源などの環境保護の一助になると同社では期待している。

エフシーエスの Web 会議、Android 端末・H.264 AVC などに対応

株式会社エフシーエス(大阪市北区)は、シンプルな Web 会議「Flexible Cost Saver(フレキシブル コスト セイバー)」の新バージョンを 2012 年 11 月 1 日より提供開始。(2012 年 11 月 1 日)

新バージョンでは、多くの顧客から要望があった Android 端末での利用(バージョン 2.3.1 以降)、動画圧縮規格 H.264 AVC に対応、アプリケーション共通機能の改善(64bit アプリケーション共有・描画速度の向上)などに対応している。

Flexible Cost Saver は、2007 年の発売以来、自社サーバ型(買取・レンタル)、クラウド型と導入の携帯に合わせたサービスを提供してきた。シンプルなアイコンによる操作、事前のインストールが不要、同時接続課金といった点が特長という。登録ユーザ、開催会議数、利用時間は、契約ライセンス内で無制限となっている。

*関連記事:2010 年 5 月 31 日号など。

ブイキューブ、国際間利用での利便性を高める「Global Link」対応国にインドを追加

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、Web 会議サービス「V-CUBE ミーティング」のオプション機能として提供している「Global Link(グローバル リンク)」の対応国を広げ、6 月 25 日より、新たにインドを追加した。(6 月 25 日)

日本とアジア各地域を結ぶインターネット回線は、回線障害による遅延や通信途絶などによりサービスを快適に利用できない場合がある。また、日本国内拠点のテレビ会議システムと同等のサービスを海外拠点に設置することは、高価な専用回線の確保といった導入面での課題がある。

Global Link は、日本・中国・シンガポール・マレーシア・インドネシア・タイ・ベトナムの 7 カ国に設置している V-CUBE ミ

ーティングのデータセンター間を専用回線で接続し通信環境を強化することで、安定した通信と快適で安価なサービス利用環境を実現する。2012年11月より開始。今回のインドで8カ国となる。



(ブイキューブ 資料)

ブイキューブでは、アジア地域での拠点数を増加し、販売やカスタマーサポートの体制を強化するだけでなく、アジア地域におけるサービスの利便性を高める取り組みに力を入れている。Global Linkを利用できる地域も今後順次拡大させていく予定という。

Global Link は、14日間の無料トライアルが可能となっている。

IIJ グローバル、マネージドビデオ会議サービス「COLLABO de! World」の「ゲートウェイサービス」にインターネット回線を利用した接続品目を追加

株式会社 IIJ グローバルソリューションズ(東京都千代田区、IIJ グループ会社)は、クラウド型マネージドビデオ会議サービス「COLLABO de! World(コラボ・デ・ワールド)」のゲートウェイサービスに、閉域接続とインターネット接続の両方が可能な「デュアルゲートウェイ」と、インターネット接続が可能な「インターネットゲートウェイ」の2品目を追加。7月1日より提供開始する。(7月1日)

COLLABO de! World は、ビデオ会議システムとビデオ会議の利用に必要となる国内外のネットワークやデータセンターの設計・調達・導入・運用そしてヘルプデスクをワ

ンストップで提供するマネージドビデオ会議サービス。

これまで、顧客ネットワーク内での利用を可能にする閉域ゲートウェイのみを提供してきた。

	既存品目	新品目(2013年7月1日提供開始)	
	閉域ゲートウェイ	デュアルゲートウェイ	インターネットゲートウェイ
利用用途	同一企業の傘下にある国内の複数拠点を結ぶなど、閉域接続によるビデオ会議用ゲートウェイ	閉域接続とインターネット接続を併用したビデオ会議用ゲートウェイ	海外拠点や取引先など、インターネット回線で接続するビデオ会議用ゲートウェイ
最小セッション数	10	閉域:10 インターネット:5	5
最大セッション数	100	閉域:100 インターネット:100	100

ゲートウェイサービス 種類(IIJ グローバル 資料)



ゲートウェイサービス サービスイメージ(IIJ グローバル 資料)

そこで、既存のビデオ会議端末の利用、海外拠点やグループ企業間・取引先とのビデオ会議接続といったニーズが広がりつつある現状を踏まえ、同社では、今回、インターネット経由でビデオ会議端末が接続できるゲートウェイ機能をサービスラインナップに追加した。これにより、これまで閉域網では接続できなかった拠点とゲートウェイを介して容易に接続ができるようになる。ビデオ会議活用シーンが広がると同社では期待している。

このインターネットゲートウェイは、月額192,000円(基本料金、インターネット接続料金を含む)で利用可能となっている。

なお、このサービス開始に合わせて、インターネット経由のビデオ会議やクラウド型多地点接続サービスの検討を行っている企業を対象に「cdW 多地点接続トライアルプログラム」を準備している。

沖電気工業の「Visual Nexus」、タブレット端末対応アプリケーションの販売開始

沖電気工業株式会社(東京都港区)は、ビデオ会議システム「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」に対応する Android タブレット版ビデオ会議アプリケーション「Visual Nexus Endpoint Mobile for Android」をラインナップに加え、7月1日より販売を開始。(7月1日)



Visual Nexus Endpoint Mobile for Android 活用イメージ (沖電気工業 資料)

2012年国内におけるタブレット端末の出荷台数は、前年比91.3%増の462万台(IDC Japan 3月27日プレスリリース)に達し、企業ユーザにおけるタブレット端末の導入が拡大している。

沖電気工業はこのような状況に着目し、タブレット端末上で高画質なビデオ会議を実現する Visual Nexus Endpoint Mobile for Android を発売するに至った。遠隔コンサルティング、現場や本部間のコミュニケーション、モバイル会議、BCP 対策などのビジネスシーンでのビデオ会議の活用を想定している。また、2013年12月には iPad 対応版の販売も開始する予定という。

対応 OS	Android 4.0/4.1
映像コーデック	H.264
音声コーデック	G.711、MPEG-4 AAC
最大解像度	CIF(送信)、w432P(受信)
カメラ	フロントカメラ/リアカメラ 切り替え可能
資料共有	H.239 形式の資料共有映像の受信が可能

主な仕様(沖電気工業 資料を基に CNA レポート・ジャパンにて作成)

標準価格は、10 ユーザライセンス 25 万円(税別)。ただ

し、ユーザライセンスの他、別途 Visual Nexus システムへの接続のためモバイル連携アプリケーションの導入が必要。

出荷時期は7月29日。販売目標は、2013年度に累計で1000社(Visual Nexus 累計)を目指す。

Visual Nexus に関する窓口は、同社 通信システム事業本部 企業ネットワークシステム事業部 ビジュアルネクサス BU。

アイ・ティ・エックス、Web 会議サービス「MORA Video Conference」iOS 版をバージョンアップ

アイ・ティ・エックス株式会社(東京都港区)は、Web 会議サービス「MORA Video Conference(モーラビデオカンファレンス)」iOS 版のバージョンアップを実施する。(7月2日)

主なバージョンアップ内容は以下の通り。

(1) iPad/iPhone の画面上での接続画面表示を最大 20 拠点まで対応。この表示数はパソコンで会議を行う場合と同様な数で、表示する相手画面数は 1~19 まで選択が可能。画面の数にかかわらず音声は常時全拠点双方向となっている。これまでは自己画面を含め最大 3 画面までだった。

(2) 相手画面を選択する操作を軽減した。ポップアップするリストから指先で選択、入れ替えできる機能を搭載した。

(3) ダブルタップでの相手画面の拡大、縮小表示、ピンチイン、ピンチアウトでのサイズ調整機能を搭載した。

なお、iOS 版の費用については、PC 版クライアントライセンスに含まれておりそのまま利用できる。



iPad での 20 拠点接続画面イメージ (アイ・ティ・エックス資料)

MORA Video Conference は、ネットワ

ーク環境とブラウザがあれば利用可能な Web 会議サービ

ス。マニュアル入らずの簡単操作で、CD 並の高品質な音声の特長。TCP443/80ポート利用でセキュリティポリシーはそのまま利用できるという。月額 3,150 円/ID 定額制の「ASP モデル」と、カスタマイズが可能な「サーバ導入モデル」の 2 パターンを提供している。

ポリコムジャパン、ビジネス メディア フォン「Polycom VVX 300 シリーズ」と「Polycom VVX 400 シリーズ」を日本市場で提供開始

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、ビジネス メディア フォン「Polycom VVX 300 シリーズ」と「Polycom VVX 400 シリーズ」を日本市場で 7 月 2 日より提供開始する。(7 月 2 日)

Polycom VVX シリーズは、「Polycom HD Voice」や「Polycom Acoustic Clarity」技術を搭載することで、音声のエコーや途切れ、ハウリングを抑え明瞭な音声で通話ができる場所に特長がある。

Polycom VVX 300 シリーズは、6 回線の登録が可能なエントリーレベルのビジネス メディア フォン。低程度から中程度の通話料を処理するユーザに最適。一方、Polycom VVX 400 シリーズは、カラーディスプレイを採用した 12 回線の登録が可能なミッドレンジのビジネス メディア フォン。中程度の通話量を処理するオフィスワーカーやコールセンターオペレーターに最適。

その他の共通した特徴としては以下の通り。

(1) 通話や連絡先の管理が容易: 電話機の画面上で Microsoft Exchange のカレンダー表示と管理、会議のリマインダーやアラート受信、企業ディレクトリーならびにインスタントメッセージング/在籍情報へのアクセスが簡単。

(2) 既存投資の活用とコスト削減: SIP ベースの通話制御プラットフォームであれば既存のネットワーク上に導入することが可能。加えて、Web ベースの設定ツールにより、導入・管理・アップグレード・メンテナンスを簡単に行えるようになっている。

(3) 他社製アプリケーションとの容易な統合: 広範囲な標

準規格に準拠したオープン API に対応することで、サードパーティ製の UC アプリケーションや業務アプリケーションと簡単に統合できる。

なお、Polycom VVX 300 シリーズおよび Polycom VVX 400 シリーズはポリコムの認定販売代理店を通じて提供する。価格はオープン。

製品・サービス動向-海外

Vidyo 社、ユーザビリティを強化した「Vidyo Conferencing 3.0」を発表

米 Vidyo 社は、「Vidyo Conferencing 3.0」を発表。米国フロリダ州で開催された InfoComm 2013 にて展示・デモが行われた。(6 月 12 日)

Videoconferencing 3.0 に関する主な発表内容は以下の通り。

(1) データ共有およびコラボレーションアプリケーション: Vidyo 端末に加え iPad を第二のコラボレーションスクリーンにすることでできる機能。ホワイトボードや書きこみが行える。

(2) 「Vidyo Remote»: iOS や Android 向けのリモートコントロールアプリケーション。「Vidyo Room」のタッチスクリーンコントロールが行える。

(3) 「Vidyo Web»: ブラウザーを使った会議が行える。インスタントメッセージングからワンクリックで会議が開始できる。

(4) 「Vidyo Room HD40»: Intel NUC ソリューションをベースに開発された小型製品。999 ドルから。

(5) 「Vidyo Panorama 600»: 1080p60fps のスクリーン 6 台で動作するテレプレゼンスシステム。25,000 ドルから。

なお、今回発表された Vidyo Conferencing 3.0 は、2013 年 3 四半期リリースの予定となっている。(CNA レポート・ジャパン: 日本での発売については未確認。)

なお、InfoComm 2013 での Vidyo ブースでは、今回発表された Vidyo Conferencing 3.0 のほか、H.265 (HEVC) デモも行われている。

(次ページへ続く)

Vidyo 社のビデオ会議システム、マイクロソフト社「Lync」との統合を拡大

Vidyo 社は、マイクロソフト社「Lync」との統合を拡大したと発表。この Vidyo マイクロソフトソリューションは、「Vidyo Conferencing 3.0」の一部として提供する。出荷開始は 2013 年第 3 四半期を予定。(6 月 12 日)

統合のポイントは以下の通り。(1)Vidyo エクスペリエンスを Lync クライアントでも実現。(2)Lync 環境でのマルチパーティーレイアウトにおいて 1440p30 を実現。(3)既存のビデオ会議システムとの相互接続。(4)「VidyoRoom」端末、Mac ユーザ、iOS/Android モバイルユーザを Lync で行われている通話・会議に参加させることができる。(5)帯域管理ツールの機能強化。(6)管理されていないネットワークにおいてレジリエンスをもたせた信頼性の高いパフォーマンス。

以上に加えて、Vidyo 社は、Active Directory や Outlook plug-in、「Vidyo Plug-In for Lync」を提供する。Vidyo Plug-In for Lync によって、「Lync 2010」と「Lync 2013」に対応する。また、非 Lync ユーザを、ブラウザを使って Lync 会議に参加させたり、予約会議の際には、Outlook plug-in によって、ユーザは URL をクリックするだけで会議に参加したりすることができる。

人事動向-海外

Vidyo 社、同社の法律顧問に Steve Lehman 氏を任命

Vidyo 社は、同社の法律顧問 (General Counsel) に Steve Lehman 氏が任命された。(6 月 6 日)

Steve Lehman 氏は、20 年以上もの法務経験を持ち、Vidyo 社においては、海外も含めた法務やコンプライアンス関係を担当し、CEO Ofer Shapiro 氏に報告する。

同氏は、Vidyo 社に入社する前は、トムソン・ロイター社における、グローバル ファイナンシャル&リスク部門上級担当副社長兼法務/M&A 担当役員。トムソン社がロイター社を買収 (Wikipedia: 現トムソン・ロイター社 2008 年設立) す

る前からロイター社で勤務。また、その前は、ニューヨークにある Simpson Thacher & Bartlett 法律事務所に勤務 (corporate attorney)。ベンチャーキャピタル投資、ジョイントベンチャー、戦略的アライアンス、M&A、上場手続き、企業顧問などの法務処理に関わる。さらに、その前は、ニューヨーク南部地区の地方裁判所で法務書記 (Law clerk)。

導入・利用事例-国内

七十七銀行、テレビ会議システムの全店へ導入

株式会社七十七銀行 (仙台市青葉区) は、今年 5 月にテレビ会議システムを全営業店 141 店 (計 158 ヶ所) に導入したと発表。(6 月 25 日)

同行では、効率的かつタイムリーな情報共有を行い、また、コミュニケーションを活性化させるための行内における会議や打合せ、行員等のスキルを向上させるための行内研修会、さらには、災害等発生時におけるより迅速で的確な状況の把握・指示・連絡をおこなうための連絡手段のひとつとして、活用している。

導入したシステムは、日立製作所製「Woolive (ウーライブ)」。録画された研修映像をいつでも視聴できる機能 (オンデマンド配信) も備えている。

株式会社七十七銀行 <http://www.77bank.co.jp/>

産業競争力会議、シスコシステムズのテレプレゼンスシステムを活用

シスコシステムズ合同会社 (東京都港区) は、日本経済再生本部の下に開かれる「産業競争力会議」の民間議員に、「Cisco TelePresence」と「Cisco Web Meeting Center」とを提供していると発表。(6 月 14 日)

産業競争力会議は、安部内閣総理大臣を議長とし、関係閣僚及び 10 名の民間議員 (民間企業) から構成されており、日本の産業競争力の強化や国際展開に向けた成長戦略をどのように具現化し推進していくかについて調査審議している。

産業競争力会議の民間議員は、海外出張が多いため、毎月開催される会議に、直接赴いて参加することが難しいと

いった問題を抱えているという。出張先からであっても、会場に直接赴いたように会議に参加できる仕組みを必要としていた。



産業競争力会議でのテレプレゼンス利用（シスコシステムズ資料）

そこで、シスコシステムズは、こういった要求に応えるため、民間議員からの依頼に基づき、Cisco TelePresence の提供を開始した。また、国内外を問わず、いつでも、どこでも会議に参加できる Web 会議システム Cisco WebEx Meeting Center も提供することで、会場以外の場所からも、産業競争力会議に参加することが可能になった。

シスコシステムズは、グローバル化が進む中、このような遠隔地間でも臨場感のある自然なコミュニケーションが重要だと考えている。世界中のさまざまな政府機関などを支援してきた経験やノウハウを活かし、日本の政府機関や地方自治体などでのクラウド化の普及推進に積極的に取り組むと同時に、テレプレゼンスによるコラボレーション環境とサービスを今後も提供していくとしている。

産業競争力会議

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/skkkaigi/konkyo.html>

SMBC 日興証券、シスコのコラボレーションソリューションを採用

シスコシステムズ合同会社（東京都港区）は、SMBC 日興証券株式会社（東京都千代田区）が、シスコのコラボレーションソリューションを採用したと発表。（6月20日）

SMBC 日興証券では、IP 電話・メール・ビデオ会議システムなどこれまでさまざまなコミュニケーションツールを社員に提供していたが、各システムが独立して導入され、個別最適化が図られていた。

そこで、今回のシステム刷新では、全てのコミュニケーション基盤の統合、既存ディレクトリーやアプリケーションとの連携強化、「いつでも、どこでも、どのデバイスからでも働ける環境」の実現を目指した。

今回導入した主なソリューションは、統合コミュニケーションソリューション「Cisco Jabber」、ビデオ会議システム「Cisco TelePresence System EX90」「Cisco TelePresence System SX20 Quick Set」、ソフトウェアライセンス「Cisco Unified Workspace Licensing Professional Edition」。

ソフトウェアライセンスは、音声通話・モバイル・ソフトウェアクライアント・メッセージング・Web 会議などのライセンスをユーザ単位ひとまとめで提供する形になっている。これにより、必要な時にすぐに利用できるため、ワークスタイルのさまざまな変化に対し、素早く柔軟に対応できるという。

SMBC 日興証券では、今回の新システムにより、業務効率や生産性の大幅な向上、外出先からでもスムーズな顧客対応による顧客満足度の向上、ユーザ単位ライセンスによる運用管理とコラボレーションコストの最適化などの効果が期待できるとしている。

今後、同社では、全社へのフルコラボレーション環境の実現を目指すとともに、マルチデバイスを活用した、利用者のシチュエーションに応じた多様なコミュニケーションインフラの高度化を実現していく考えだ。

SMBC 日興証券株式会社 <http://www.smbcnikko.co.jp/>

セミナー・展示会情報

<国内>

会議の効率化を実現！『ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催

日程:7月17日(水)、24日(水)、31日(水)

※全ての日程で13:30-14:30、15:30-16:30の2回開催

会場:NEC情報システムズ 本社(東京都港区)

主催:日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ

詳細・申込:

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

タブレットでビデオ会議体験

Android タブレットを使うとこんな活用方法が！

日時:7月19日(金)

1回目:13:30-14:30(受付:13:00)

2回目:15:30-16:30(受付:15:00)

会場:OKI 虎ノ門ショールーム(東京都港区)

主催:沖電気工業株式会社

詳細・申込:<http://www.oki.com/jp/telecom/event/vn.html>

導入したビデオ会議ソリューションを使いこなせていますか？

日時:7月19日(金)15:30-16:30(会場:15:15)

会場:ポリコムジャパン(東京都千代田区)

主催:ポリコムジャパン株式会社 サービス運営部

詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/company/events/index.html>

最新テレビ会議システム 体験デー 来て！見て！体験して！

日時:7月24日(水)

*1時間半のセミナーを一日3回実施(同内容)。

会場:ポリコムジャパン(東京都千代田区)

主催:株式会社大塚商会、ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:<http://event.otsuka-shokai.co.jp/13/0724vc/>

*7月19日もポリコムジャパン主催で開催予定あり。

「テレビ会議 VS Web 会議」無料体験会&商談会

日時:7月24日(水)~26日(金)10:00~/15:30~

上記日程の午前/午後にて計6回

会場:VTV ジャパン 大阪オフィス

主催:VTV ジャパン株式会社

詳細・申込:http://www.vtv.co.jp/seminar/1307vtv_osaka/

【見える"カレッジセミナー in 大阪】

~海外拠点・取引先を Web 会議でつなぐ/導入事例ご紹介

日時:7月25日(木)14:00-15:30 (受付13:30-)

会場:axビル4F(大阪市北区)

主催:株式会社ブイキューブ

詳細・申込:<https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/90>

国内その他:<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他:<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

*イベント情報は、情報が入り次第、随時掲載しています。

CNA Report Japan アーカイブ電子ブック版

>2003年-2012年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/ebook/

電子ブック制作:カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございます。

とくに海外ニュースでカバーできていない記事がありますので次号以降キャッチアップしていきます。

先月北米でInfoComm 2013やWebRTC Conference & Expoが開催されています。関連の情報やニュースレポートなどは、Wainhouseのほか、youtubeなどでも閲覧できるようですので、ご興味がある方は検索されてみてはいかがでしょうか。ちなみに、Wainhouseでは、最近発行されたPDFのニュースレター(6月20日号、7月9日号)、またYoutubeでは、”InfoComm 2013”などと入力すると関連の映像が出て来ます。

市場プレイヤーも増え、また動きも速いのが最近の遠隔会議、UC市場です。先月を振り返ると、シスコとiRobot社の開発したロボット型テレプレゼンス「Ava500」や、Yahoo!による電話会議サービスRondee社買収、Pexip社のビデオ会議プラットフォーム「Pexip」、InfoComm会場でZTE・Vidyo社などがH.265(HEVC)”初”デモ、StarLeaf社新製品、WebRTCなどに、個人的には注目しました。また、中国、インド、東欧、ロシアあたりからも新規参加が増えていきますので、こちらも注目しています。

これら以外にも興味深いニュースが続々と入ってきていますので、CNAレポート・ジャパンとして、定期レポート・Twitter・Facebook・dte-forumを通して皆さんと遠隔会議・UCの動きをシェアしていきたいと思っています。

次号もよろしく願い致します。 橋本啓介